

いかにモ 慣激ワイド



カードを持つ以上、顔にでも被害の危険が...

未唯も1700万円は被害 急増の電波スキミングで、 あなたのキャッシュカード が偽造される!

カードに触れることなく、情報を盗み出す...その最新手口と防衛策を取れ!

偽造のキャッシュカードを使って、ピンク・レディーの未唯(46)が1700万円も預金を引き出される被害に遭っていた。

最初に引き出されたのは昨年12月のことと、未唯が犯行に気づく今年4月末まで、約10回にわたって銀行口座から引き出されていたのだという。偽造

カードに詳しい日本情報流通管理協会(NPO法人・伏見正浩理事)は話す。

「未唯さんのケースは普段使っていないカードで自分が出さなかったということですが、それが間違いないならば、非接触型のカード情報を盗み取る機械(スキマー)を使ったのでしょう。ファンを触った犯人が未唯さんに近づいて、スキマーで靴の上などからカードの情報だけを抜き取った可能性が考えられます」

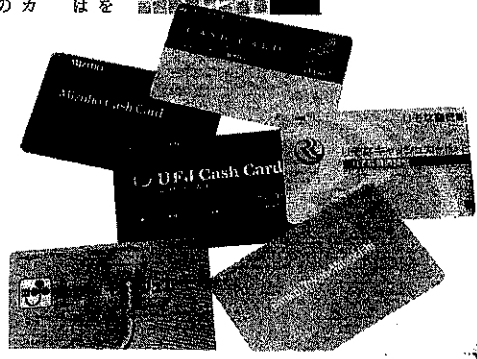
伏見さんによれば、情報を抜き取る「スキミング」には3通りある。

- ①仕掛け式——クレジットカードに使用される手口で、店のカードリーダーに基盤を組み込み、犯人が後で基盤を抜き取ってデータを盗む。
- ②無線式——ATMの通信回線に電波発信型のスキマーを仕掛け、その電波を受信してカードのデータや暗証番号を盗み出す。
- ③非接触型——財布やレコーダー大の小型スキマーで、財布や靴の上にかざすだけでカードの磁気情報を盗み出す。

未唯の場合は3番目の非接触型という。ただ、銀行カードに記録されている口座番号だけ盗み出しても、暗証番号がわからなければ現金は引き出せないはず。

「それが古いカードには口座番号と一緒に暗証番号も記録されているのです。10年以上を配布しています」

「専門家は、技術的な対策が必要だと指摘しています。『犯人が捕まっていなくても、具体的な手口もわからないので...』もし新しいICカードに切り替えて、それに対応した機械を導入するとこれまでのカードが使えなくなったりするなど、問題点もあります」



前のカードなら、1度スキミングしただけで現金を引き出せます(伏見さん)

全国銀行協会のまとめによれば、偽造キャッシュカードによる預金引き出し被害は平成14年度までの3年間の間が20件3200万円だったのに対して、昨年度に入ると9月までの半年で31件6000万円、年末までの3か月間で47件1億900万円と激増している。その理由は、昨年から非接触型のスキマーが出回るようになったからと思われる。この新手法の犯罪に対して銀行側はどんな対策を打っているのだろうか。全国銀行協会ではこう答える。

銀行側には

「暗証番号の管理の徹底を呼びかけるチラシ、ステッカーを配布しています」



伏見正浩さん

「暗証番号をこまめに変えるほか、通帳記入を頻繁にすること。犯人が少額ずつ引き出すことがあるので早く被害に

気づく必要があります。スキミングを避けるためには必要のないときにはキャッシュカードを持ち歩かない。そして大口の預金が入っている口座にはキャッシュカードは作らないことです」

今後、被害の急増が予想されている。カードの口座の残高は少なくしておくのが一番の対策のようだ。